

■ 議題1のテーマ「これからの自然科学系研究者にとって、市民意識を捉えることは重要か。そもそも、市民意識は捉えられるのか。」という問いについて、お考えをお示してください。

・いささか答えにくいなあと逡巡しておりました。

・「知的好奇心」も「有用性」も基本的にどこかで専門家ならではの視点でありつつ、専門に関わらない人間の生理や欲望と常に繋がっているものでもある。なので、「自らの研究分野・研究行為を社会的にも歴史的にも位置付けてみる」ためにも、「アウトプットのニーズを知り、先手を打って対応する」ためにも、「よりスムーズに研究成果が世に受け入れられる」ためにも、「より平易な言葉遣いで本質を伝える訓練をする」うえでも、「予算を獲得する」ためにも非専門家の方々の考え方、捉え方を知ることが重要だろうと思いますし、楽しいことでもあると思います。

・とはいえ「誰が市民なのか」「研究者は市民ではないのか」ということもありますし、イベントやアンケートの際、どのような情報を提供するかによってかなり参加者のレスポンスが変わってくることに細心の注意を払う必要があると思います。意見を搾取せず、どのように対話、フィードバックできるのか、も大事な点なのかなと思います。少なくとも2000年代のサイエンスコミュニケーションブームの際にも試みられたことだと思うので、その総括と反省に則ってどんなことが新たにできるのか、改めてSTS関係の方に伺いたいです。